

天然自然の摂理～元の理～

2020.12.16 ver. -作成途中- ©小林真

人間が生きて意味。それは人を助け楽しませ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はずいぶん変わる。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみよう。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。
どんな時も、この身、全てを借りていることを忘れずに。
どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

※「理」≒事実、要因

十柱の動きには、「陰での動き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での動き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

⑥月よみ

体内: 骨、首、足腰、男一の道具
世界: つっぱり支える働き
立てる働き、柱、望、岩石、地殻
遠心力、膨張力、反発力
外へ移動、凸型

陰での動き

陰で周りを引き立て支え、大事な所で俊敏につっぱり心

陽3: 陰7

足役。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。
ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

⑨をふとのべ

体内: 出産時に子を引き出す働き
身長、爪、毛髪の成長、思い出す、閃き
世界: 引き出し一切、潜在的なものを引き出す働き、教育、動植物の成長

陽3: 陰7

時句を見定め、陰の動きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

過剰(くもよみ不足): もう不要なものや引き出さなくていいものまで引き出してしまふ状態。
不足(くもよみ過剰): 物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質に気付かず、また句を見誤り、引き出せない状態。長所や良さを潰してしまう状態。

⑧かしこね

体内: 息、呼吸、鼻で吸い(加温、加湿、清浄)口で吐く(冷暖房、加湿除湿)
声、言葉、耳、聴覚、平衡感覚
世界: 風、音、空気、大気、振動、波、潮の満ち引き

陽7: 陰3

流れを生み、向きを変える働き。言って勇ませ、聞いて楽しむ心

聞き上手が話し上手に。耳を傾け、勇み心を八方へ。

⑤くにさづち

体内: 皮膚、肉、筋繊維、手血管系、リンパ管系、女一の道具
世界: 柔軟な繋ぎの働き、花、縁、出会い、引き寄せ、求心力、万有引力、内を充実

陽7: 陰3

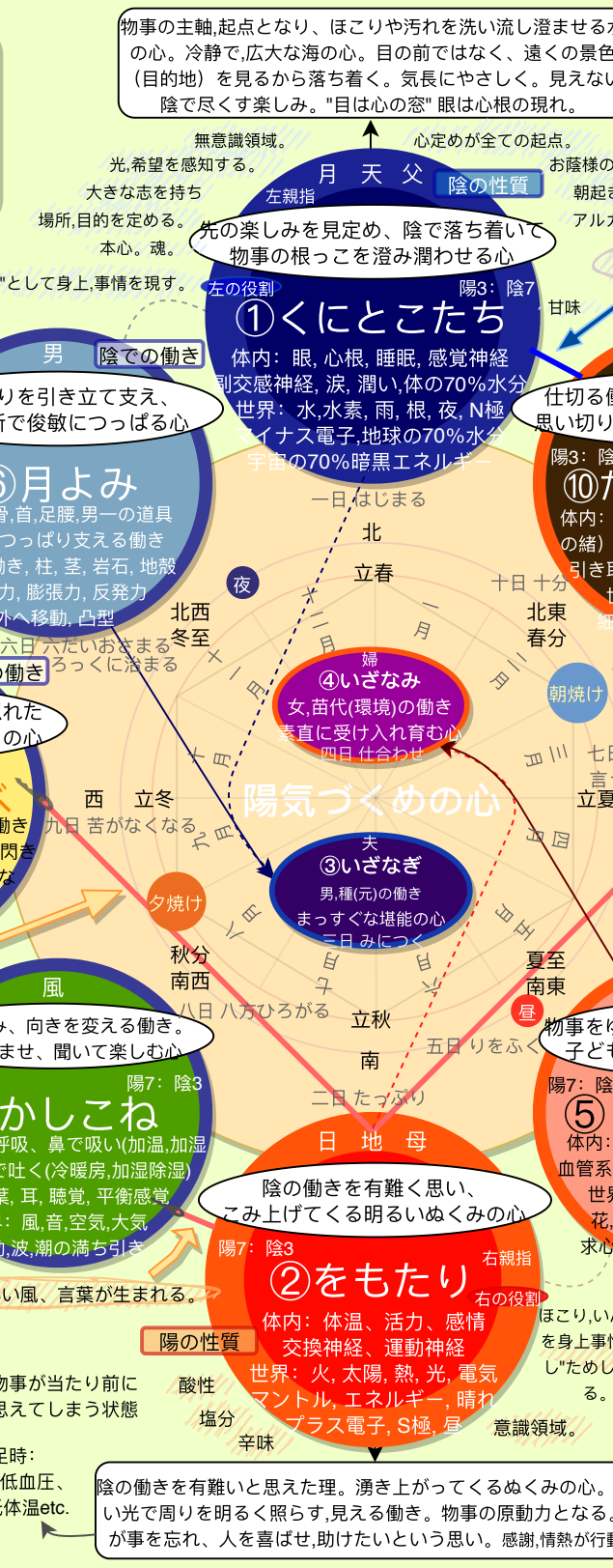
陰の動きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

②をもたりに

体内: 体温、活力、感情、交換神経、運動神経
世界: 火、太陽、熱、光、電気、マントル、エネルギー、晴れ、プラス電子、S極、昼

陽7: 陰3

陰の動きを有難く思い、湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす、見える働き。物事の原動力となる。我が事を忘れ、人を喜ばせ、助けたいという思い。感謝、情熱が行動へ



①くにとこたち

体内: 眼、心根、睡眠、感覚神経、副交感神経、涙、潤い、体の70%水分
世界: 水、水素、雨、根、夜、N極、マイナス電子、地球の70%水分、宇宙の70%暗黒エネルギー

陽3: 陰7

くにとこたち不足時: 高血圧、不安症、ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

くにとこたち不足時: 高血圧、不安症、ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

⑩たいしょく天

体内: 出産時に親子の胎縁(臍の緒)を切り、出直し時に息を引き取る働き。散髪、爪切り
世界: 切ること一切、細胞分裂、食物の収穫

陽3: 陰7

陰での動き

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に思い切り、切を付けて進み出す心

天の理と心の理を合わせよう。

⑦くもよみ

体内: 嗅覚、味覚、咀嚼、飲み込み、消化、吸収、排泄、代謝、解毒、免疫、循環調節、理解、記憶、(不要な情報を)忘れる
世界: 水気循環、溶解(分解、酵素)→蒸発(吸収、分離)→気体→雲(凝固、老廃物)→降雨、降雪(排泄)

陽7: 陰3

陽での動き

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎え入れ、残留物は流す循環・順応の心

過剰(をふとのべ不足): 物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。物忘れの傾向。

②をもたりに

体内: 体温、活力、感情、交換神経、運動神経
世界: 火、太陽、熱、光、電気、マントル、エネルギー、晴れ、プラス電子、S極、昼

陽7: 陰3

陰の動きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

⑤くにさづちに

体内: 皮膚、肉、筋繊維、手血管系、リンパ管系、女一の道具
世界: 柔軟な繋ぎの働き、花、縁、出会い、引き寄せ、求心力、万有引力、内を充実

陽7: 陰3

陰の動きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

『この道は言うて聞かす道やない。行て見せる道や』
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、"自分"はどういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

『自分の心が澄んだら、誰の顔みてもよい顔に見えるようになるで』

死めというのは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てると同じこと。

過剰(をふとのべ不足): 物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。物忘れの傾向。

不足(をふとのべ過剰): 物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰&不足: 物事が身に付かず、朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

人を助ける処に、自分が助かる。相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント!

【二つ一つの理とその均衡】
対になる動きは助け合い、シーソーのように運動して作用する。
①くにとこたち: ②をもたりに
③いざなぎ: ④いざなみ
⑤くにさづち: ⑥月よみ
⑦くもよみ: ⑧をふとのべ
⑨かしこね: ⑩たいしょく天

隣り合う動きも夫々似ており運動している。なのでこの図は3Dで立体視することも可能に思われる。